

鶴岡市文化会館（荘銀タクト鶴岡）財務諸表について

令和2(2020)年 5月

鶴岡市では、市民の皆さんと情報を共有し、よりよい市政運営を図っていくための試みの一つとして、このたび鶴岡市文化会館（荘銀タクト鶴岡）の財務レポートをとりまとめました。

このレポートでは、オープン初年度にあたる平成30(2018)年度の施設の稼働状況などとともに、その財務状況について、民間企業会計の手法にならない、総務省が定めた「統一的な基準による地方公会計制度」（新公会計制度）に基づいて作成した財務諸表の概要をお伝えしています。

これまでの官庁会計による決算だけではわかりにくい資産・負債などのストック情報や、減価償却費等を加えたコスト情報を明確にすることで、市民の皆さんへの説明責任の充実や、マネジメントの強化を今後も図ってまいります。

1 施設の概要



荘銀タクト鶴岡（鶴岡市文化会館）
（写真提供 鶴岡市教育委員会）

【施設の名称】

荘銀タクト鶴岡（鶴岡市文化会館）
ネーミングライツパートナーを(株)荘内銀行とし、通称を「荘銀タクト鶴岡」としています。

【土地や建物】

- 敷地面積：13,096.84㎡
- 延床面積：7,846.12㎡
- 構造：鉄骨造、鉄筋コンクリート造、杭基礎
- 整備総事業費：96億7,600万円
- 建築面積：5,756.35㎡

【建物内の設備】

- 客席数 大ホール：固定1,120席、多目的鑑賞室：15席
- 貸室 小ホール、練習室、会議室、楽屋、託児室

【開設の時期】

- グランドオープン 平成30年(2018)年3月

2 施設の稼働状況 平成30(2018)年度

【自主事業(開館記念事業)】

- 開催事業：12件
事業内容：右表のとおり
- 入場者合計 16,205人

【貸館事業】

- 利用件数：209件
主な利用：市内小中学校の合同音楽会や、高校吹奏楽部の演奏会、などの市民利用
- 利用者合計 89,156人

【その他】

- 館内見学会の開催
開催回数224回、参加者計3,507名

事業名	実施年月日	入場者数(人)
NHKのど自慢(予選会及び本選)	H30.4.7~8	2,500
宝塚歌劇雪組全国ツアー公演	H30.4.10	2,191
劇団四季全国ツアー公演『ソング&ダンス65』	H30.5.6	1,016
松山千春コンサート・ツアー2018「弾き語り」	H30.5.20	1,100
松竹大歌舞伎	H30.7.16	1,652
三浦文彰×辻井伸行 デュオ・リサイタル	H30.7.22	1,102
海上自衛隊東京音楽隊 鶴岡公演	H30.8.25	2,044
山崎まさよし(コンサート)	H30.10.5	1,020
円楽・たい平二人会(落語公演)	H30.10.20	1,055
音楽の絵本(コンサート)	H31.1.26	789
夫婦漫才(演劇公演)	H31.3.5	836
山形交響楽団荘内定期演奏会 鶴岡公演	H31.3.26	900

資産と負債 (賃借対照表)

資産	負債
90億2,900万円	71億7,400万円
主な内訳 ●土地 2億2,500万円 ●建物 87億6,200万円 ●物品 1億1,400万円	主な内訳 ●建設費に充てた市債 71億1,100万円
	純資産 18億5,500万円

平成31(2019)年3月31日現在

【資産について】

土地建物や物品(ピアノや緞帳、舞台道具)など、事業用の固定資産が、その大半を占めています。

【負債について】

建設費に充てた市債の償還残高が、その大半を占めています。

【純資産について】

資産と負債の差であり、債務なく将来世代へと引き継がれる、純粋な市民の資産にあたります。

【参考指標】 市民一人当たりの 資産と負債

資産 71,549円	負債 56,850円
	純資産 14,699円

鶴岡市の人口
126,195人

(平成31(2019)年3月31日現在 住民基本台帳)

【参考指標】

有形固定資産減価償却率 **2.6%**

～耐用年数に対してどのくらい老朽化が進んでいるか

算式：減価償却累計額/有形固定資産(土地等の非償却資産除く)+減価償却累計額

➤建物の耐用年数は、財務書類の作成基準上、50年と設定されています。竣工から間もないため低水準ですが、減価償却が進むことで、今後徐々に上昇していきます。

➤今後の見通し

資産は、建物や物品の減価償却が進むことで徐々に減となりますが、負債についても、市債が15年間で償還されていく予定であることから、それを上回る早さで減となることが見込まれます。

この結果、純資産が形成が進むこととなりますが、建物や設備の経年劣化に計画的に対応し、市民の資産としての価値を保つために、適切に維持補修を図ってまいります。

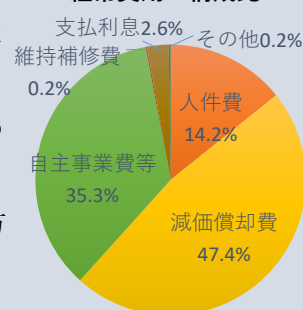
費用と収益 (行政コスト計算書)

科目名	金額(千円)
経常費用	460,743
人件費 運営にあたる職員の給与など	65,603
物件費等 減価償却費や自主事業費など	382,262
支払利息 建設費に充てた市債の利払い	11,821
その他	1,057
経常収益	62,494
使用料 貸館収入など	22,279
その他 自主事業の入場料収入など	40,215
純経常行政コスト	398,249
臨時損失 災害復旧事業費など	-
臨時利益 資産売却益など	-
純行政コスト	398,249

【経常費用について】

物件費が約3億8千万円と大半を占めますが、このうち建物などの減価償却費(使用に伴う1年間の価値の減少額)が約2億2千万円、自主事業(公演など)開催のための経費などが1億6千万円となっています。

経常費用の構成比



【経常収益について】

自主事業による入場料収入やネーミングライツによる収入、フロア使用料などにより構成されています。

【純行政コストについて】

経常収支と臨時収支の合計額で、文化会館の運営にあたり、市が負担しているコストにあたります。

【参考指標】

市民一人当たりのコスト **3,156円**

算式：純行政コスト/住民基本台帳人口(126,195人※)
※平成31(2019)年3月31日現在

【参考指標】

受益者負担比率 **13.6%**

～費用はどのくらい収益でまかなわれているか

算式：経常収益/経常費用

➤今後の見通し

令和3(2021)年度に市直営から指定管理委託による運営に移行することを目指しており、これにより人件費など経常収支の改善、純行政コストの削減など、運営のさらなる効率化を図ってまいります。